



ビハラー山陰総会・研修会報告



と き 2016(平成28)年5月18日(水)

と ころ 本願寺山陰教堂 教化センター

午前は総会を開催。前年度事業並びに決算・監査報告。そして新年度の事業計画・予算案を審議しました。

午後からの研修会は、邑智東組高善寺衆徒で臨床心理士、スクールカウンセラーの武田正文先生を迎え「ビハラー活動における心の声の聴き方」という講題で、前半は「心の理解」について、後半は「心の声の聴き方」について、ロールプレイを交えてご講話を頂きました。28名の参加でした。



「第9回ビハラー活動第4連区研修会」に参加して

と き 2016(平成28)年1月30日(土)～31日(日)

と ころ オークラホテル 丸 亀

出雲組 宗玄寺 錦織 智恵子



標記の研修会は「無縁化する社会問題にむきあう」のテーマのもとに丸亀市で開催され、山陰教区から5名参加させていただきました。

実は、昨年9月、日立市の友人から、「夫に末期の胃癌が見つかり、夫の願いで在宅で看取りをすることに」と電話がありました。私は彼女を支えようと、毎夜電話をし思いを聞くことに徹しました。11月「心細いから来て」と連絡を受け、駆けつけ、御主人とも話しができ、一緒にお茶を飲みましたが、翌朝私たち2人の見守る中、静かに息を引きとられました。僅か2ヶ月の闘病生活でした。彼女は「助けることができなかった」と自分を責め続けました。私はかける言葉が見つからず、戸惑うばかり。ただ彼女の傍に居るだけで何もできない自分が虚しかった。この友人との最期の看取り体験から今回の研修会に参加したいと思いました。

上農哲朗先生の講義は「独居者を在宅で看取りできるか」の副題のもとに話され、課題と難しさを学びました。「在宅の看取りは強要しない。逆に最期は病院へも誘導しない。そのために緩和ケア病棟や急性期病院は確保しておく」等のお話でした。懇親会の席上参加者が先生に「看取りの中で良かったことは？」と訊ねたところ、先生は「大変だったねと遺族に声をか

けると『これでよかった』と答えられたことです」と話しながら涙ぐまれたと聞きました。家族に心から寄り添い、支えておられる先生だと感じました。このことから、私が思い悩んでいた糸口が見つかったように思います。無理にことばをかけたたり励ますのではなく、自然体で寄り添えばよいことに気づかされました。そして、ビハラー活動のすばらしさを認識いたしました。

友人の御主人の最期の場に居合わせたことは大きなご縁であり、今、生かされていることに感謝しています。私は今回の学びを活かし、更に研修会や寺院での聴聞を重ねていきたいと思っています。

